



学校だより

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/honjuku>



令和5年8月28日
横浜市立本宿小学校

「学び方」を学ぶ

～その子のやり方で学び続けていく力を育てたい～

校長 松比良 聡夫



AI(人工知能)などの進化により今後「10～20年後に49%の職業が消える」などの予測も聞かれています。変化の激しい時代に、自分のよさを発揮して、自分らしく生きていくためには、私たちも学び続け変化し続けることが大切です。

そのためには、単に知識を暗記するだけではなく、『「学び方」を学ぶ』ことが大切だと思います。自分で課題を発見し、解決の道筋を立て、調べたり、比較したり、まとめたり、発信したりしながら、他者とも協力して探究する。そんな学びのプロセスを身に付けることが、学校教育にも求められていると思います。

学校説明会でもお話ししましたが、今年度は『端末持ち帰り試行校』の指定を受けて、7月から学年段階に応じてiPadの持ち帰りを試行しています。デジタル機器を学習ツールとして効果的に活用できるスキルの定着をめざします。トラブル防止のために、フィルタリングアプリ導入や利用時間を制限する設定などを行いましたが、本人に情報モラルの意識を育てていくことが大切です。定期的に情報モラルの指導を繰り返しながら、日々の意識につなげていきたいと思っています。

3年生以上には、英語専科や一部教科担当制を導入しました。教材研究を充実させ、「わかる授業」「子ども主体で楽しい授業」をめざし、「学び方」を学べるように工夫しています。その際、聞いたり書いたりするだけでなく、話し合ったり、プレゼンをしたり、絵や漫画に描いてまとめたり…などなど、様々な方法で学習し、「自分に合った(得意な)学習方法」を見つけられるようにしたいと考えています。自分の得意なやり方で学習することで意欲や理解が増していければと思います。

コロナ禍に減少したコミュニケーションを取り戻すためにも、縦割り班の活動も充実させています。今年はペア学年が同じ階になるように教室配置を変更し、音読や歌の聞き合いなど日常的に異学年交流を行っています。縦割り班で行うスマイル活動では、張り切って運営する高学年、楽しんで参加する低学年、間をつなぐ中学年の関係もでき、リーダーシップやフォロアーシップも育ってきています。年齢や性別が異なる友達と交流することで、多様性を理解し合うことにつなげていきます。スマイル本小ラリーやスポーツフェスティバル等の行事や集会活動では、子どもの主体性を育てるために実行委員など児童が中心になって計画するようにしています。学校をよりよくできる実感と達成感、責任感を味わい、ここでも『学び方』(企画・運営や協力の仕方)を育てていきたいと考えています。

変化し続ける社会で力を発揮できるように、『学び方を学べる学校』にしていきたいと思っています。